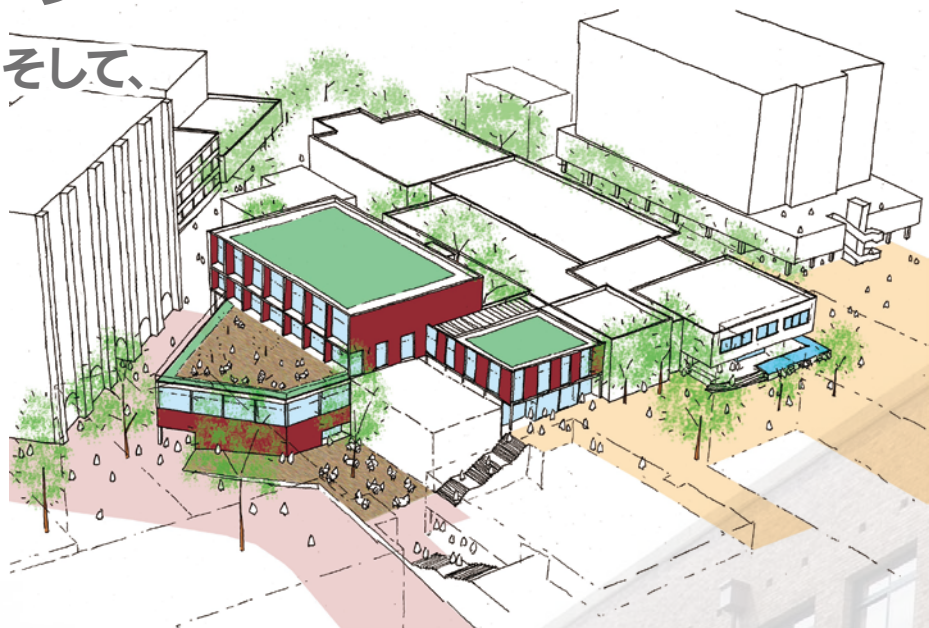


# 学長からのメッセージ

創立140周年に向けて、そして、  
さらにその先へ。



新図書館構想 (本イラストは、国立大学法人お茶の水女子大学に帰属します。)

お茶の水女子大学は、来年2015年に創立140周年を迎えます。

その前年に当たる2014年は、本学の豊かな伝統を踏まえ、未来に向けた新たな出発の年にしたいと考えています。

日本で最初の女子師範学校である東京女子師範学校が創立したのは今から139年前、1875年(明治8年)のことでした。

その後、東京師範学校女子部(1885年)、高等師範学校女子部(1886年)、東京女子高等師範学校(1908年)と改称しながらも、創設の地である現在の文京区湯島、つまり「御茶ノ水」で、優れた女子高等教育を実践し続けてきました。

女子師範学校設置の意図は、「女子の教育が男子と優劣の差が生じることのないよう女子師範学校を設ける」(注)でしたが、このようにして設置された教育は、新たな道を自ら拓く先進的な女性を数多く社会に送り出してきました。

卒業生の中には新たに学校を創設した人も多く、また、日本で最初の女性理学博士や農学博士となった研究者もいます。

創設の地である御茶ノ水から現在の大塚に移転するに至ったのは、1923年の関東大震災で校舎を焼失したことに起因したのは改めて記すまでもないことですが、震災の翌年には、同窓会である桜蔭会が新たな女子教育機関として桜蔭学園を設立しています。このことは、卒業生の類稀な行動力と先見性の証しのように思われます。

現在のキャンパスがある大塚の地に移転したのは震災の9年後1932年でした。

大学本館はこの時に建設されましたが、いまなおこの建物は本学の教育を象徴しています。

大学講堂「徽音堂」は、建設当時と変わることなく毎年新たな学生を迎え、社会へと送り出す重要な空間であり、また、附属学校の全ての児童生徒にとっても、学校生活の思い出を紡ぐ空間であり続けています。

東京女子高等師範学校は1949年に新制大学お茶の水女子大学となり、文学部と理家政学部が設置され、学部改組によって、文教育学部、理学部、家政学部の三学部となり、その後、相次いで家政学、理学、人文科学の大学院修士課程が設置されて、教育の高度化が進みました。

本学に大学院人間文化研究科(博士課程)が新設されたのは1976年でした。

人間文化研究科設置当時の概要には次のように記されています。

「本研究科は、学生が専攻をより深化しつつ、それを基軸に開拓する学際的な研究を期待している」

「学生が自らを学究として自己育成し、自立できる研究者に成長していく環境として、本研究科は、この方向に学問の世界の新しい扉をともに開こうとする学生を歓迎する」

「深化」、「学際」、「自己育成」はこの大学院の教育研究の特色であり、それは「学問の世界の新しい扉をともに開く」ことを目指しています。

(注)これは、文部少輔による太政大臣宛設立建議書(明治7年1月)を受けて、木戸孝允(文部卿)の布達(明治7年3月)として記されたものです。また、木戸孝允の肖像画が、本学元学外理事和田昭允先生から、寄贈され、本学歴史資料館で所蔵しています。



そして、この姿勢は現在、学士課程から博士課程までの教育研究の特色ともなっています。

大学運営上の大きな転換期は2004年の法人化でした。法人化によって、国立大学は経営の観点を導入し、学長のリーダーシップの下で目標を設定し、大学の独自性を発揮して運営に当たることが求められるようになりました。そして、目標がどれだけ達成されたかが評価されています。

お茶の水女子大学は、法人化の第一期中期目標を設定した際に、大学の使命を次のように掲げました。

「お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在する。」

2004年から2009年までの第一期の中期目標期間の6年間の評価は、組織改革や競争的資金の獲得によって、他の大学に比べて極めて高いものでした。

今年と来年は、第二期中期目標期間の終盤の2年であり、第二期中期目標期間の最終年である2015年が本学創立140周年に当たります。この点でも140周年は、本学にとって大きな節目の年といえます。

今特に大学改革が重要な課題になっていますが、本学では、学士課程改革に力を入れてきました。それは、新たなリベラルアーツ教育である「21世紀型文理融合リベラルアーツ教育」と本学独自の専門教育「複数プログラム選択履修制度」です。

こうした教育改革に加え、学生支援の多面的な取り組みも、国立大学のみならず公立私立の大学からも注目され評価されてきました。それは、附属図書館、新学生寮、そして奨学金制度などです。

附属図書館と新学生寮は「共に在ること」を共通理念として整備しました。国内の大学に先んじて整備したラーニング・コモンズ(2007年)は、「共に学び、共に成長する」場として、また、新たな学生寮お茶大SCC(2011年入寮開始)は、「共に住まい、共に学び、共に成長する」場として機能しています。

さらに、予約型奨学金「みがかずば奨学金」も国立大学の先進的な制度として注目されました。

そして何より国立の女子大学として、グローバルに活躍する女性リーダーの育成と男女共同参画の取り組みを強化してまいりました。

学士課程から大学院課程までのリーダーシップ養成プログラムや女性研究者支援のための制度を新設し、他機関との連携も拡大させています。

他大学で女性支援活動の中核となっている卒業生も多く、とくに理系の女性研究者に本学出身者の割合が高いことは、お茶の水女子大学の教育の成果に違いないと他大学から注目されていますが、昨年、理工系女性リーダー育成を目的とする「博士課程教育リーディングプログラム」が採択されました。

一昨年は、文部科学省のグローバル人材育成推進事業の実施機関となり、全学的なグローバル化に取り組んでいます。特に、学生の海外留学を促進するために、2014年度からは他大学に先駆けて四学期制を導入することにしました。

これらの取り組みを核として、これまで以上にグローバルな視点をもって活躍する女性リーダーの育成に努めてゆきたいと考えています。

こうしたこれまでの本学の特色ある取り組みを活かし、140周年を記念する新たな事業も開始しました。

その一つに、新図書館構想があります。この構想のコンセプトは「知の創造、交流、循環」です。

現在、大学教育にはアクティブラーニングが重要であるといわれていますが、優れた学生と教員による高度な教育体制を実現してきたお茶の水女子大学では、アクティブラーニングから一歩進めてクリエイティブなラーニングを実現する場としての図書館を構想しています。

2014年は、140周年に向けた、そしてさらに未来に向けた取り組みの年にしたいと考えています。

新しい年が実り多い年となりますように。

2014年 春  
学長 羽入 佐和子



学長からのメッセージ  
創立140周年に向けて、そして、さらにその先へ。